

ヴィーチと神奈川植物 2

小原 敬

English gardener J. G. Veitch and his deeds on the flora of Kanagawa

Takashi OBARA

2. 江戸および神奈川近郊に生育する主要用材樹

1. Eng-o, s. [エゴノキー *Styrax japonica* SIEB. et ZUCC.] 建築に普通用いる良材。

2. Mo-ku, s. [ムクノキ *Aphananthe aspera* (THUNB.) PLANCH.] 非常に美材で、硬く緻密な木理で、鞍や曲物に用いる。

3. Mo-mi, s. [モミ] *Abies firma*. この地区で普通のマツ科植物で、高さ120フィートに達し、材は良質であるが長さは15フィート、普通建築その他に用いる。

4. To-yo-matsu, s. [トヨマツ: ヒメコマツ *Pinus Parviflora*]. この国の普通のマツの一種で、建築に用いる。

5. It-su-ga, s. [ツガ] *Abies Tsuga* [*Tsuga sieboldii* CARR.] 材は日本人に非常に貴ばれている。白色の丈夫な材で、家屋の建築に用いる。

6. Su-gi, or Sun-gi [スギ] *Cryptomeria japonica*. 一般に日本のツエダーと呼んでいる。帝国の全域を通じて普通。材は軽く軟かいが、非常に低廉で最も広く用いられているものの一つである。

7. Ki-a-ki, s. [ケヤキ] *Planera acuminata* [*Zelkova serrata* (THUNB.) MAKINO] 日本のエルム。恐らく日本で最も美しい材である。巾4—5フィートの板をしぼしば見かける。材は硬く、非常に丈夫で暗褐色。木目は美しいが、幾分粗らい。磨きは良く、家屋の内装、ドア、家具、タンス、漆器に用いる。

8. Kay-a, [カヤ] *Cephalotaxus drupacea* [*Torreya nucifera* (L.) SIEB. et ZUCC.] 主に造船に使用。(現在 *Cephalotaxus drupacea* SIEB. et ZUCC. はイヌガヤに当てられているが造船用にはカヤ材が用いられてい

る]

9. A-cang-a-shi, s. [アラカシ] *Quercus species* [*Quercus acuta* THUNB.] 日本のカシの一種ではあるが、この国に一般的なカシではない。材は非常に良質で高価である。非常に硬く、強度が大きい。舵、橈など船舶用。

10. Shi-rong-a-shi, s. [シロガシ] *Quercus species* [*Quercus myrsinaefolia* BLUME] 緻密な木理の重い材で No. 9 に非常に似て同様の目的に用いられる。

11. Sawara, s. [サワラ] *Retinispora pisifera* [*Chamaecyparis pisifera*] SIEB. et ZUCC.

日本のこの地域で普通の樹種であるが巨木にはならない。桶、樽、風品桶などを作るのに用いる。

12. Icho [イチョウ] *Salisburia adiantifolia* [*Ginkgo biloba* L.] 樹は巨木になり、非常に美しい装いを身につけている。材は良く磨くことができる。軽い箱、タンス、机の製造に用いる。

13. Ku-a [クワ *Morus alba* L.] 粗い木理の軽い材。主に磨いた小形の細工物に用いられる。

14. Sa-wa-ku-ri [サワクリ] *Thuja species* 広くは用いられていない。材は軟く軽い。(不詳種)

15. Ku-ro-bi [クロベ *Thuja standishii* (GORD.) CARR.] 非常に良質の軽い材。濃色か淡色、家屋内の壁、天井などの内装に使用。

16. Kir-ri [キリ] *Paulownia imperialis* [*Paulownia tomentosa* (THUNB.) STEAD.] 非常に軽い材で日本人の履物の底に用いられる。

17. Hi-no-ki [ヒノキ] *Retinispora obtusa* [*Chamaecyparis obtusa* SIEB. et ZUCC.] 日本で最も良質で最も美しい用材の一つである。材は非常に高価で、神社仏閣には一般にこの木材が使用されている。水中や地中でも良く耐える。船舶も本材で造る。家屋の建築特に床板に用いられる。材は軽く白色で美しい。

18. Asu-na-ro, s. [アスナロ] *Thujopsis dolabrata*. 日本で最も美しい樹木の一つ。材は粗で軽い。建築に用いられる。

19. A-ung-kirvi [アオギリ] *Paulownia species* [*Firmiana simplex* (L.) W. F. WIGHT] No. 16の変種。[キリはゴマノハグサ科に属し、アオギリはアオギリ科の植物で類縁関係はない] 材質ははなはだ似ていて、同じ用途に用いられる。

20. Cash-y s. [カシ] *Quercus species*. 日本のオーク。常緑、落葉ともに多くの種がある。樹は巨木になる。材は非常に良質で恐らく全世界のいろいろなカ

シと同じである。大きな強度を必要とする総ての用途に用いられる。日本の刀剣の柄は主にカシで作られる。

21. Ging-di-su-gi, s. [ジンダイスギ ?] *Thuja species* 軽い材, 家内工作物に用いられる [種名不詳]

22. Mee, s. [ウメ *Prunus mume* SIEB. et ZCCU.] 良質の材で非常に重く硬い。磨くと美しくなる。美しい箱, 飾り棚などを作るに選ばれる材の一つである。

23. Hi-ba [ヒバ] *Retinispora species* No. 17の近縁種, 主に建築に用いられる。

24. Mo-mo, s. [モモ *Prunus persica* (L.) BATSCH.] 重く丈夫な材磨くと美しく箱物や飾り棚などに用いる。

25. Kat-su-ra, s. [カツラ *Cercidiphyllum japonica* SIEB. et ZUCC.] 美しい材で, 艶をかけるとちょうど絹様の外観を呈し, 木理美しく, 暗褐色, 重量は中程度である。美しい精巧な細工に最も良い材の一つであると日本人が考えていて, 非常に珍重されている。

26. Ho [ホオノキ *Magnolia obovata* THUNB.] 軽い白色の材, 日本刀の鞘は総てこの材で作られる。

27. Shi-ra-bi [シラベ] *Abies Veitchii* LINDL.] 軽い白色の材。建築に用いる。

28. Ya-ma-na-ra-shi [ヤマナラシ *Populus Sieboldii* MIQUEL] 下駄と刀の柄などに用いる。

29. Ka-ki, *Diospyros kaki* 非常に広汎には用いられていない。材は硬く, 幾分脆い。風雨に曝すと堪えられない。

30. Mats-u, s. *Pinus densiflora and Massoniana* [アカマツ *Pinus densiflora* SIEB. et ZUCC. and クロマツ *Pinus thunbergii* PARLAT.] この国の普通のマツである。樹は大きく育つ。材は大きく良質。並木や総て目立つ場所にこれらの樹を植える日本人に高く評価されている。マツはヨーロッパの小板 (deal) にあたる。樹脂もそれらから製造される。

31. Kats-u-no-ki [カツノキ, ヌルデ *Rhus javanica* L. ?] 余り重要でない用材樹。箸や小物を作るの

に用いられる。

32. Na-ra [ナラ, コナラ, *Quercus aliena* BLUME] 小形の箱を製す。

33. Ku-rong-no-ki [クロノキ ?] 材はほとんど黒色をしていて黒檀によく似ている。日本では非常に稀れで, 良質の漆塗りの椀などに用いられる [樹種不詳]

34. Sing-y [シンジュ, ニハウルシ *Ailanthus altissima* SWINGLE. ?] 建築や雑用に普通使用される。

35. Ya-na-ny [ヤナギ *Salix sp.*] 余り利用価値のない普通の材。

36. Momids-y [モミジ] *Acer species*. 日本のマープル。日本のカエデには変わった種類が多い。この国では材は余り用いられていない。樹は主に装飾用に植栽されている。

上記のものは主要用材樹のリストである。全体として日本の用材は諸外国のものと異なっていないと考える。それは非常に豊富で安価である。それらの樹種のほとんどのものは英国でも良く生育するであろう。

記号 [S] は日本とそれに近い島々でのみ見受けられるものである。

[追記]

最近本篇で取扱っているヴィーチと彼が来日していた当時の英国公使オールコックに関する著書が発行されたので紹介しておく。

春山行夫: 1980 花の文化史—花の歴史をつくった人々—講談社。東京。

英国チェルシーの種苗商ヴィーチ家の活躍, J. G. ヴィーチおよび彼の長子で1892年来日した J. H. ヴィーチの事蹟も詳しく述べてある。

増田 毅: 1980 幕末期の英国人—R. オールコック覚書。有斐閣, 東京。

オールコックを中心に幕末期における日英両国間のカルチャー・ショックを解明している。

(平和学園 茅ヶ崎市)